

学力向上だより

佐賀市立鍋島小学校
令和5年10月13日(金)
No. 2
校長 家永 裕行
たしかな学び部

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

4月に文部科学省による学力・学習状況調査が実施されました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

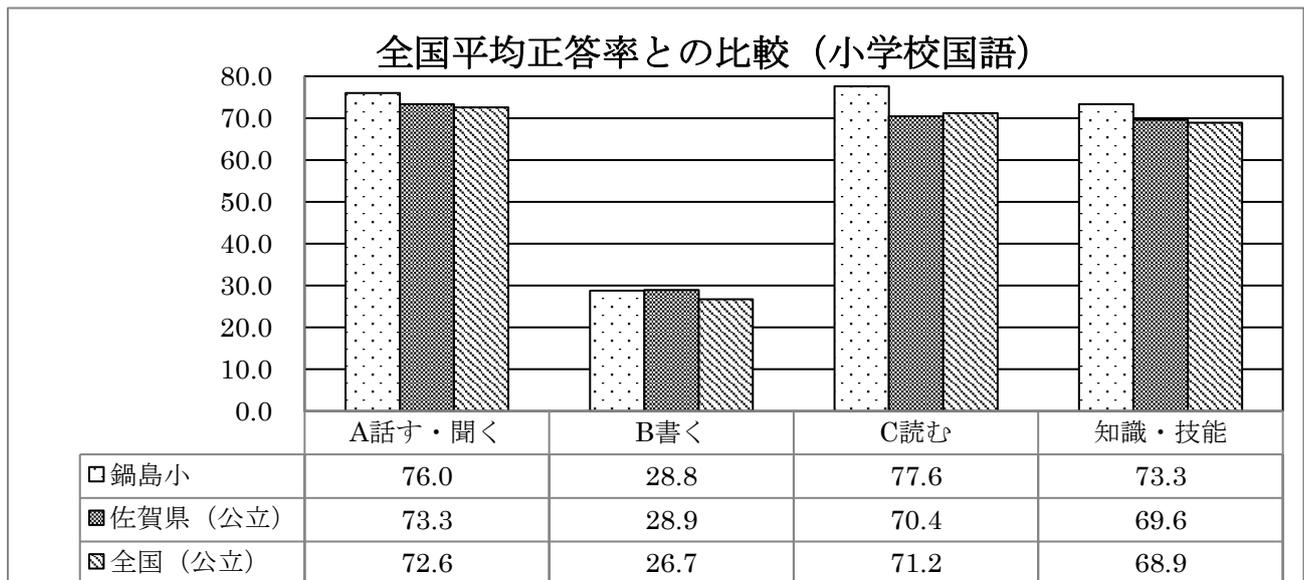
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全国平均を上回る結果でした。領域別では、A話す・聞くとC読むは全国平均を大きく上回りました。B書くについても全国平均よりも高い結果でした。

(2) 成果と課題, 誤答傾向

今回の調査で、記述式問題の正答率が全国と比較して高い結果となっており、校内研究で取り組んでいる自らの考えを表現する力が生かされていると考えられます。しかし、記述式問題(下記表参照)で述べられている情報を整理して自分の意見をまとめる問題では、全国と比較して上回っていますが、正答率が28.8%でした。問題文への印付けが不十分だったことで解答するための必要な情報を整理できておらず、問題文で問われていることに正確に解答することができていませんでした。日々の授業で文章を読み進める中での印付けを意識付け、大事な情報を整理する習慣を身に付けていくことが重要であると捉えています。

問題番号	問題の項目	本校%	佐賀県%	全国平均%
1の二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができるか。【記述式】	28.8	28.9	26.7
3の二	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか【記述式】	69.9	71.0	70.2

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

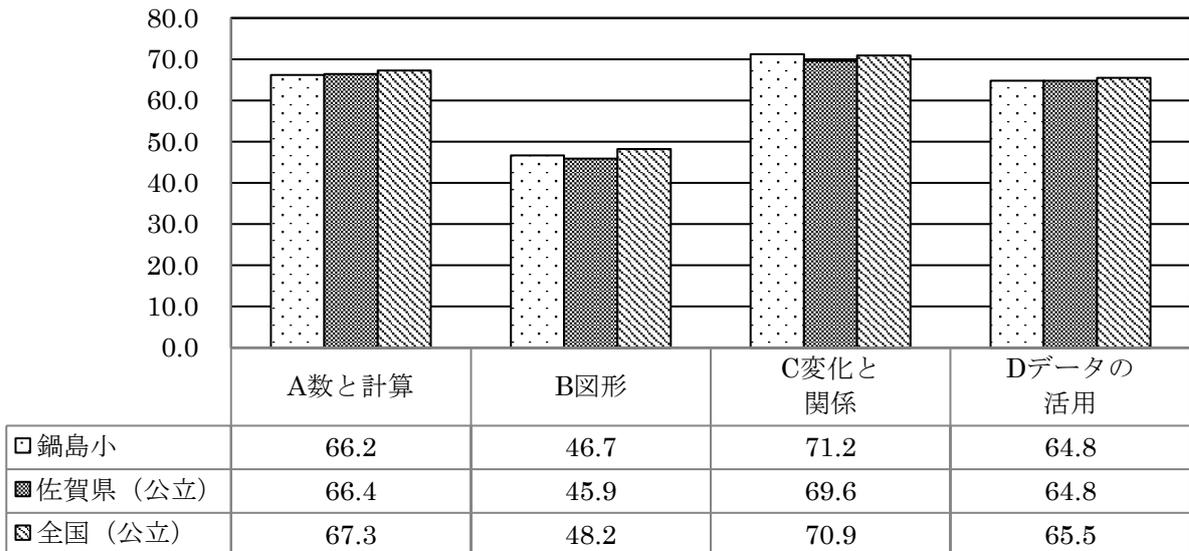
- 問題文を読むときに印付けを習慣化できるよう継続して指導していきます。
- 学年の段階に応じて各教科で図、グラフ、表などから分かることや自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れます。
- 与えられた条件に合わせて文章を書くことに力を入れていきます。
- 自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書くことができる指導をしていきます。
- 主語・述語の関係や、文の構成を意識させ、相手にわかりやすく伝える文章を書く力を伸ばしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんのノートや教科書、宿題を見て学習の様子を把握し、ぜひ会話してください。文章問題では、印付けをするようにお声掛けをお願いします。音読の宿題への取り組みも引き続きお願いします。頑張っているところをほめていただくと自信につながります。
- 家族で読書をする時間を作りましょう。読書をすることにより、読書の幅が広がり、会話する機会が増え、知識や想像力を豊かにします。
- 敬語や挨拶などは、日常生活において、相手や場面に応じて使えるように声を掛けてください。

2 算数

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結果

総合的にみると、県平均を上回りました。領域別にみると、C 変化と関係の領域は正答率が全国を上回りました。他の領域は、全国平均をわずかに下回る結果となりました。

(2) 成果と課題、誤答傾向

今回の調査で、基礎的な知識問題や短答式の問題の正答率が高い結果となっており、日頃の学習の成果がみられます。しかし、図形領域の問題の誤答や、記述問題（下記参照）の正答率が全国より低い結果になりました。図形の問題について、授業で ICT を活用しながら空間認知力や想像力を高める経験を積極的に行うことが重要であると捉えています。また、記述問題では、普段から問題の大事な言葉に線を引いたり、印を付けたりするなどして、情報を整理することも重要と考えます。

問題番号	問題の項目	本校%	佐賀県%	全国平均%
3の(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかを判断する。【記述式】	51.0	55.6	56.7
4の(3)	グラフを比較し、分かったことを言葉と数字で記述する【記述式】	53.1	56.2	56.2

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 問題文のキーワードや表やグラフの数値など、問題解決に必要な数や言葉に印を付けるだけでなく、必要な数や言葉を書き込んだりすることで、文章を正しく理解できるように指導します。
- 算数用語を正しく覚え、使うことができるように繰り返し指導します。
- 算数の学習の内容を生活の場面に関連付けて、指導する機会をつくります。
- 記述問題に自信をもって回答できるようにキーワードや数などを使って考えや理由を書く機会をつくれます。

【ご家庭では】

- 宿題のひとつである「算数音読」は算数の基礎基本の定着のために行っています。今後もご協力をお願いします。また、計算ドリルノートや宿題プリントで、お子さんの理解を知ることができます。印付けができていないか、大事な条件を理解しているかの確認も併せてお願いします。
- 保護者の方からの称賛や励ましの言葉はお子さんの学習意欲向上につながりますので、宿題など、ぜひ定期的に目を通して、言葉掛けをお願いします。
- 買い物や料理、ドライブなど、身の回りには算数の学習内容と関連しているものがたくさんあります。学んだことを日常生活で活用することで、さらに理解を深めることができます。お子さんと一緒に問題を考え、それを解決してみる機会をつくってみてください。どのように答えを導き出したのか、お子さんが説明することができるとうばらしいです。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 [成果(○)と課題(●)]

※「している」「どちらかといえばしている」の割合

《 学習について》

※ () の数値は今年のデータ

質問番号	質問内容	鍋島小%	県	全国
3 2	5年生までに工夫して発表していましたか。	53.3● (47.6)	58.0	63.7
3 6	友だちと話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか。	82.6○	81.4	81.8
3 7	学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	86.0○	80.3	77.4
3 8	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。	78.0●	83.7	81.9

授業中に対話で考えを広げたり深めたりすることができ、次への学習へつなげることもできています。しかし、工夫して発表したり、他の学習に生かしたりすることに課題があります。

《家庭学習の様子》

質問番号	質問内容	鍋島小	県	全国
1 6	家では、自分で計画を立てて勉強している。	77.3○	69.8	70.7
1 7	普段（月～金）1日あたり1時間以上勉強している。	68.0○ (58.2)	54.3	57.1
2 0	普段（月～金）1日あたり1時間以上（2時間以上も含む）読書している。	28.0○ (21.3)	18.6	18.5
5 9	家庭学習の課題（宿題）として、ICT機器を使用して週3回以上、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしている	12.7●	9.8	14.0

家庭での学習については、計画を立てて取り組むなど習慣付けが進んでいるようです。学校でのICT機器の学習への使用回数が増えているものの、家庭での英語学習での利用は全国的と比較すると、少なくなっています。

《生活習慣・その他》

質問番号	質問内容	鍋島小	県	全国
6	先生は、わかるまで教えてくれていると思いますか。	96.0○	95.2	93.0
7	将来の夢や目標を持っていますか。	77.3●	82.4	81.5
9	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.7○	97.4	96.9
1 0	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	78.0○	67.5	68.5
1 1	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	95.3○	96.6	95.9

「わかるまで教えてもらえる」「困ったら相談できる」という回答が県や全国平均を上回っており、学校や先生に対して安心感をもっている児童が多くいることが分かります。「いじめはいけないことだ」と答える児童が県や全国平均を上回っています。「人の役に立ちたい」と答えている児童は全国平均並みに高い数値ですが、将来の夢や目標といった具体的な将来像を描いている児童は県や全国平均を下回っています。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 規則正しい生活の大切さについて引き続き指導していきます。
- なりたい自分を考えさせ、キャリア教育の充実にも引き続き取り組んでいきます。
- 授業で学んだことを他の学習や生活に活用することを考えさせ、対応力、向上につなげていきます。
- ICT機器の家庭での活用がこれから進んでいくと思います。目標やルール、使い方を確認し、家庭と学校が連携していきます。

【ご家庭では】

- 今までの取り組みが実を結んでいるので、自主学習や鍋島スタイルなどできていることを称賛していただければと思います。
- 当たり前なことでもできていることや頑張っていることをほめる機会を作っていただくことが、お子さんの自己肯定感を高めることに繋がります。ほめる機会を見つけ、「あなたは大切な存在だよ」というメッセージを送ってください。

